

魚のアパートづくり急ピッチ

近く大型魚礁を投入

県、五百トンの増収めざす

十一年計画で天草西海岸沖に魚の「海田圃地」建設をめざし、大型魚礁の投入を乗り出している県は、近く本年度分二千五百五十個を牛深市の奥島西方沖に投じてこむ。四十六年度までに総事業費一億七千万円、魚礁二万五千個を使って四カ所に、海の大規模アパートをつくり、漁業資源の確保をはかる。

この大型魚礁投入は県が漁業改良造成事業として三十七年度から始めたもので、魚礁は二枚角、重さが九百キログラムの鉄筋コンクリート。従来の各市町村で投入している並み型魚礁と同じ大きさだが、一方所に大量に投入するため特に「大型」と呼んでいる。各面に縦、横四十センチの四角の穴があいており、魚が自由に出入りできるようになっている。建設費は四割に県が負担した魚礁にはわが国

草類がはえ、魚たちの好物のプランクトンが発生するので、餌のすみ家となるわけ。こうして、海田圃地をつくり天草西海岸沖を回遊する魚たちを少しでも長く引きとめ、できるだけ多く定住させようというのがわが国で、昨年はまず若北町高岡西海岸沖合い五キログラムの海面に三千百二十

個(事業費十二百五十万円)を投じた。ことしは牛深市の奥島西方沖合い五キログラムのところに二千五百五十個(千六百五十万円)を投入する。本県市町村の海岸で魚礁が急がれており、八月十日ごろから十一月中までに投入してしまいう予定だ。来年は天草町高浜沖に約二千五

百個を、そして四十六年度までに高岡地に九千個、奥島沖地に八千個、高浜沖地に五千個のほか鹿児島県と共同で龍島と長島の間あたりにも三千個、しめて二万五千個を投じてみ、いずれも三ないし四階建ての「魚のアパート」を建設する。百個当たり年間二トの水揚げ増があるといわれ、全部で五百トほどの増収が期待できると県は意気こんでいる。

一方、並み型魚礁の方はこれまで天草で約七千個が投入されているが、ことしはさらに各市町村で二千五百個ほどふやす計画。また伊勢エビ用の魚礁約三百五十個も投入されることになっており、魚礁の「アパート」は年々ふえる一方だ。